



よみがえれ

# 美しい三河湾

7月23日(水)は

三河湾浄化の日

環境課  
☎66・1122

## 三河湾って どんなところ

三河湾は、平均水深約9mの遠浅の海で、かつては干潟や浅場があちこちにありました。そこには二枚貝やゴカイなど、さまざまな生物が数多く生息し、これらをえさとする魚や鳥たちが集まりました。浅くて太陽の光が海底まで届き藻類がよく繁殖する三河湾は、水産資源の豊かな海でした。しかし、1970年頃から埋立てが盛んになり、現在、1951年にあった干潟や浅場の面積の17%が失われてしまいました。

## 汚れやすい 三河湾

三河湾東部に流れ込む大きな河川は豊川だけです。その豊川は、上水道や農業用水への利水がすすみ、河川の流量が減ってきているため、海水を三河湾の外に押し出す力が弱くなり、湾内の海水が入れ替わりにくくなっています。また、干潟や浅場が埋立てによって減少し、自然の浄化能力が弱まったため、一度汚れたら、なかなかきれいにならない汚れやすい湾になっています。



かつて、工場排水や事業場排水、さらに私たちの生活排水により自然の浄化能力を超える汚水が三河湾に流入し、湾の底にたくさんのおドロ口がたまってしまいました。夏場には、おドロ口から溶け出す栄養分によって植物プランクトンやアオサが大量に発生します。それらの死がい分解されるときに海の中の酸素がたくさん使われるため、生き物の暮らしに大きな影響を与えています。

## 浄化対策事業



▲アオサ除去作業

きれいな海を取り戻すため、国・県では、おドロ口のしゅんせつ・覆砂などの直接浄化事業や干潟造成事業を行っています。市では公共下水道の整備や生活排水対策の啓発に力を入れています。また、今年度はアオサの除去事業を行います。

## 家庭でできる 取り組み

工場・事業場に対する水質規制が強化された結果、海に流れ込む汚れは生活排水が55%と大きな割合を占めるようになり、産業系は31%と少なくなってきました。

生活排水の中でも、米のとぎ汁や食器の洗い水など、台所からの排水が汚れの大きな原因となっています。「面倒だから。私一人くらいならいいだろう。」では海はきれいになりません。皆さんのちょっとした努力の積み重ねによって、美しい海がよみがえります。

### 川・湖・海の水をきれいにするために、 私たちにできること

流しには、水きりネットをかぶせた三角コーナーなどをつけ、調理くずや食べ残しを流さないようにしましょう。

食用油は、なるべく使いきるようにして、捨てる場合も下水に流さず、古新聞紙などに吸い込ませてごみとして出すようにしましょう。

調理くずや食べ残しは、土に埋めると自然に分解されます。そのあと肥料としても使えます。米のとぎ汁なども肥料になります。

洗剤は量を計って、使わずに流さず、洗いすじないようにしましょう。

